

八上校区まちづくり協議会広報誌

# やかみ高城

第六号

発行日：平成24年3月21日  
発行者：八上校区まちづくり協議会  
人口：2,336名(891世帯)  
男1,135名 女1,201名  
(平成24年2月末現在)

## 八上青パト隊 地域の『安全・安心』を守る

生活環境部長 田中忠司

八上校区まちづくり協議会生活環境部会は、「自分たちの町は、自分たちで守る」という意識のもと、昨年六月より、篠山警察署生活安全課の指導と、講習を受け、八上青パト隊を結成しました。

この青パト隊は、青色の回転灯と車の左右に防犯ステッカーを装着した車で、八上校区を巡回し、地域の防犯・防災を未然に防ぐとともに、子供たちの登下校時の「安全・安心」を守る活動を行うものです。

代表を当協議会会長池田正男、統括を田中忠司、隊員は部会員です。

十二月十九日(月)、篠山市長・篠山警察署生活安全課長を来賓に迎えて発隊式を行いました。

来賓の祝辞ののち、八上小学校児童代表、六年 溝畑穂乃花さんが「地域の皆さん、いつも私たちを見守っていただきありがとうございます。皆さんのおかげで、安心して学校に通うことができます。これからも安全に登下校できるように、見守ってください。」との励ましの言葉をいただきました。

現在、八上青パト隊は、毎月四回程度、児童の下校時や夜間に青色回転灯を点滅させ、活動をしています。殿町の入り口、国道三三二号線の交差点では、見守り隊の土谷さんが児童を暖かく迎えています。隊員も車中より「お帰り」と声をかけています。

このような活動をおして、安全に対する関心を深め、校区の皆様が安心して暮らせるまちづくりに取り組もうとしています。



パトロール中、殿町の児童と土谷さん  
八上青パト隊

## 大成功！「八上戦国ウォーク」

一般社団法人ノオト 田中 豊茂

昨年末の十二月三日の土曜日、高城山山上に残る八上城跡を舞台に「八上戦国ウォーク」が催されました。目玉は地元八上小学校六年生の児童とPTAのみなさんが演じる戦国模範合戦、それを八上校区まちづくり協議会と市の教育委員会がバックアップしてイベントは大成功に終わりました。

八上城における戦いといえば明智光秀を相手にした籠城戦が有名ですが、今回は三好氏に八上城を奪われた波多野氏が城を奪還して戦国大名へ成長するきっかけとなった戦いの再現に決定して、準備を進めていきました。合戦に必要な甲冑は、段ボールを材料に選び、休日や放課後を利用して親子で手作りです。なかなかの出来栄にしあがりしました。当日はあいにくの小雨模様でしたが、八上城登山に参加したみなさんの見守る中、子どもたちが波

多野軍、PTAが三好軍に分かれて熱戦を展開、大いに盛り上がりました。戦のあと、子どもたちが行事を通して学んだ成果を発表しました。一人ひとりの表情に誇らしげな達成感があふれていたのが印象的でした。



模範合戦(八上城跡本丸)

## 親子の考古学体験学習 「勾玉(まがたま)作り」

池田 正男

平成二十三年十二月十八日(日)、高城会館に於いて、八上幼稚園・小学校の園児や児童と保護者ら約三十名が、古代の人々の首飾り「勾玉」を作りしました。

まち協の事業は余りにも大人中心のイベントが多く、児童や生徒を対象としたものはありません。そこで楽しい体験学習をおして、親子が歴史を素材に、「作り」、「学び」、「語り合う」機会を創りました。

講師に、県立考古博物館のボランティア「考古学倶楽部」の五人を招き、勾玉についての学習と作り方を教わりました。

作り方は、最初柔らかい滑石(口ウ石、二・五×三・五×一・五センチ)に勾玉の形を下書きしたのち、砥石や紙ヤスリで削って、形を整え、紐穴をあけ、紐を通して完成です。最後に、見事な「私の勾玉」を首にかけて、みんなで写真を撮りました。



「私の勾玉」

## 三世交代交流事業 『わら草履・しめ縄づくり』

コミュニケーション部長 梶村 文敏

平成二十三年十二月十八日(日)午前の「勾玉作り」に続き、午後三世交代交流事業として高城会館大会議室で『わら草履・しめ縄づくり』を開催しました。各自治会より三世代の方々にご参加いただきました。これに先立って、塚本幸隆さん(小多田)等に稲藁を提供いただきました。また、前日には、各自治会長とコミュニケーション部の皆さんで当日の準備として稲藁をテコンコロでたたいてよりやすくしました。この加減が難しく何度か講師の方に確認をお願いしました。



藁草履・しめ縄づくり



当日は、講師として井関弘子さん(殿町)、小島啓司さん(小多田)、高木せつえさん(八上下)、紙谷祐次さん(池上)の四名にお願いし、わら草履としめ縄づくりの二つに分かれてご指導いただきました。年末ということもあり、しめ縄の方に参加者の多くが集まりました。ほとんどが初めての方ばかりで、藁をよるのが上手にいかずなかなかよれなかったですが、慣れてきたらそこそこの形になりました。完成品をみると、市販のものよりもいいものが出来上がっていました。皆さんそれぞれが満足顔でした。

## 高城会館消防訓練

高城会館館長 坂本 雅美

高城会館利用者を対象の消防訓練を市消防本部の指導及び地元消防団第七分団のご協力のもと行うことができました。消防本部から近年の火災発生件数状況及び火災原因等の報告に続き、火災時の対応についてのお話しがありました。又、高城会館の消火器の設置場所と、避難出口の確認を全員で徹底しました。

第七分団の山下方団長より地元消防団活動の状況等の報告と地元で絶対に火災を起さないように各戸が注意をして下さいというお話があり、その後駐車場で消防団の指導のもと消火器を用いて全員消火訓練を行いました。



消防訓練(高城会館前駐車場)



消防団活動の状況と報告

参加した方は、「まだまだ寒く火を使うことが多いですが、今日は家の中を点検し、家族で火災予防について話したい」といわれておりました。当日は大変寒い中参加下さいました。ありがとうございます。高城会館を利用する皆さんが、「火災を絶対に起こさないぞ！」との思いで楽しく使ってください。

## 自治会だより

### 糯ヶ坪地域づくり

糯ヶ坪自治会長 大森 作之

糯ヶ坪の集落は、三百四十三世帯(平成二十四年二月現在)、一組十八組の隣保組織で構成されています。

当地区は、「糯ヶ坪」の地名以外に「京口南」や「縄手」の名でも呼ばれます。糯ヶ坪は、もち米が良く採れたところの意味で、八上小学校の北東にある「糯ヶ坪」の字名から由来しています。江戸時代には山陰街道(京街道)の篠山城下入口の木戸が河原町の京口橋北詰にあり、京口と呼ばれていました。これに対し南側が京口南の呼称となりました。又、縄手は田んぼの中の「畦道」を意味しますが、京街道の入口を固める防衛拠点として、鉄砲・弓矢の障害になる建屋が一切認められず、田畑のみの土地だったことがうかがえます。従って、糯ヶ坪の集落は明治以降に各地域からの出身者が集まって出来た集落です。

現在の糯ヶ坪も、従来からの地区と新興住宅地および集合住宅等で構成され、地域に対する考え方や



糯ヶ坪稲荷神社と公民館

生活スタイルも多様です。この様な状況にあつて、地域内の結びつきや絆を深めることの大切さを痛感し、近年糯ヶ坪地域づくりをスタートさせたところです。ボランティアのグループも自治会に先行して事業を展開しています。親子参加の農園や地区グラウンドゴルフ大会等の各種イベントの開催、又地域歴史遺産の保存のため、古写真の収集や昭和二十三年の懐かしの地図づくり等を実施して来ました。一朝一夕では出来ませんが、時間をかけても徐々に「住んでよかった街」、「緑の繋がる地域」づくりを目指し、一人でも多くの参画を得ながら取り組んでゆく所存です。